

第1章 発見を再び発明する

第1部 集合知の有効活用

第2章 オンラインツールは

私たちを賢くする

集合知を増幅する

第3章

専門家の注意を
効率良く誘導する

潜在するマイクロ専門知識を利用する
デザインされたセレンディビティ
会話臨界

集合知を増幅する

オンラインコラボレーションはいかに既存の形態の組織を超えるか
オンラインコラボレーションはいかに市場システムを超えるか
オンラインコラボレーションと
小集団によるオフラインでの会話の比較

第4章

オンライン
コラボレーションの
成功条件

モジュール化の重要性
再利用の徹底と情報commons
マスマークス・コンペティション
ミクロの貢献
専門家の注意をコーディネートする
個の洞察を集合的洞察へ

第5章 集合知の可能性と限界

集合知の限界
科学における共有ブラクシス
科学における集合知の利用

第2部 ネットワーク化された科学

第6章 世界中の知を掘り起こす

インフルエンザを検索する
全世界の知から意味を発見する
デジタルの宇宙を探索する
データの公開

第7章 科学の民主化

科学の情報commonsを構築する
データ公開の理由
データウェブを夢見て
データドリブン・インテリジェンス
生物学におけるデータドリブン・インテリジェンス
データウェブの構築
科学にとってデータウェブは何を意味するか

科学と社会の関係を再定義する
ギャクシー・ズー再訪
どのような場合にアマチュアは専門家に匹敵するのか
今日の市民科学
市民科学はどの程度科学を変えるか？
社会における科学の役割を変える
オープンアクセス
サイエンスブログ
新たな制度を想像する
創意工夫のギャップを埋める

第8章 オープンサイエンスの課題

第一次オープンサイエンス革命
サイエンスウイキ
科学を対象にしたユーザークメントサイト
第二次オープンサイエンス革命への挑戦
科学における商業化と秘密主義

第9章 オープンサイエンスの 必要性

オープンサイエンスの強制
オープンサイエンスに向けてのインセンティブ
オープン化に対する制限
オープンサイエンス化の実践的ステップ
ネットワーク化された科学の時代

■補足説明

ポリマス・プロジェクトによって解決された問題

■推薦図書と関連情報

さらにオープンサイエンスを考えるために

■謝辞

■訳者あとがき

参考文献	370
原注	390
索引	398